



利子存在ノ理由ニ關スル學說ニ就テ

瀧本，美夫

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 4(6):751-768

(Issue Date)

1908-06

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00051268>



利子存在ノ理由ニ關スル學說ニ就テ

瀧 本 美 夫

利子トハ何ゾヤトノ問ニ對シ簡單ナル答ヲ與フルコト甚ダ困難ニシテ利子ハ
營ニ資金ヲ他人ニ貸付シタル場合ニ受クル所ノ分合計算ニヨル報酬ヲ指スノミ
ナラズ自有ノ資金ヲ運用シテ得ル所ノ利益ノ一部或ハ貨幣以外ノ財ノ使用又ハ
貸付ニヨリテ得ル所ノ收益ヲモ總稱スルモノナリ然レドモ利子ナル語ノ本來ノ
意味ハ西洋ニ於テモ矢張り貨幣ヲ貸付シテ得ル所ノ報酬ニ外ナラズシテ學者中
ニハ貨幣ノ利子ヲ示スニ interest ノ語ヲ以テシ其他ノ財ノ利子ヲ指スニ capitalrent
ナル語ヲ以テスルモノアリ (Clark) 或ハ凡テ代替物ノ利子ヲ zinsen ト云ヒ其他ノモ
ノ、利子ヲ kapitalrenter ト云フ者アリ (Böhm-Bawerk) 要スルニ單ニ利子 (interest, zins)
ト云フ時ハ通常貨幣ヲ借リタル者カ其貸手ニ支拂フ所ノ報酬ニ外ナラズ而シテ
利子存在ノ理由如何ノ問ニ對シ完全ニ答フルニハ貸付セラレタル貨幣ノ利子ノ
ミナラズ凡テノ場合ノ利子ヲ説明セザルベカラズト雖モ今本論ニ於テハ便宜上

主トシテ貸付セラレタル貨幣ノ利子ニ關シテノミ述ブル所アラントス

貸金ノ利子ヲ收ムルイガ正當ナリヤ否ヤニ付テハ何レノ國ニ於テモ古來種々ノ議論アリ而シテ最初ハ營利ノ目的ヲ以テ借金ヲナス者ハ稀ニシテ通常ハ當面ノ急迫ヲ免カレンガ爲ニ後日返濟スルコトノ難易如何ヲ顧ルノ暇ナク兎モ角モ借金スル者多カリシカバ貸手ニ取リテハ暴利ヲ貪リ易ク借手ハ夫レ丈ケ憐ム可キ地位ニ立チ隨テ利子ヲ收ムルイヲ以テ最モ憎ムベキ行爲トナスノ說行ハレ時トシテハ政府ノ一令ニヨリテ既存ノ凡テノ債權債務ヲ消滅セシメ又ハ制限スルコトモ行ハレタルイアリ本邦ノ所謂德政ハ即チ此クノ如キ動機ニ始マリシ者ナリ然ルニ其後商工業起リ營利ノ目的ヲ以テ資金ヲ借ル者漸次ニ多クナリテ借手ハ利子ヲ支拂フニ苦マズ貸手ハ資金ヲ自ラ利用セズシテ他人ニ貸付スル爲ニ元來得ベキ筈ノ利益ヲ得ザルコト人ノ認ムル所トナリテ一定ノ場合ニ限り利子ヲ取立ツルコトヲ容認スル學說起リ實際ノ制度ニ於テモ亦此ノ主義ガ行ハルハニ至リシガ如シ其後商工業益々發達シ又資本ノ供給増加シテ一方ニ於テハ借金ハ營利ノ目的ヲ以テ爲サルハコトヲ原則トスルニ至リ他方ニ於テハ資本家モアマ

リ多クノ利子ヲ貪ラザルコト、ナリテ利子ヲ取立ツルコトガ全然是認セラル、
ノミナラズ久シク存シタル利息制限法スラ全ク廢止セラル、ニ至レリ利息制限
法ハ本邦ニテハ今尙ホ存在シ契約上ノ利息ヲ左ノ如ク制限ス即チ元金百圓以下
ハ二割、百圓以上千圓以下ハ一割五分、千圓以上ハ一割二分ヲ最高限トシ若シ此制
限ヲ超過スル場合ニハ其超過部分丈ケハ無効ナルモノトス然レドモ西洋ニテハ
多クハ十九世紀ノ中葉ニ於テ之ヲ廢止シタリ即チ英國ハ一八五四年ニ丁抹ハ一
八五五年ニ西班牙、和蘭那威、サルヂニヤ諸國ハ一八五七年ニ白耳義、奧太利、普魯西
及ビ獨逸ハ一八六五年ヨリ同六七年ニ至ル間ニ何レモ之ヲ廢止シタリ唯質屋ノ
利息ニ付テハ今尙ホ之ヲ制限スルモノ少カラザルノミ (Schmoller, Grundriss, II. 202)
此クノ如クシテ最初ハ貨幣ハ果實ヲ生ゼザルガ故ニ之ヲ貸スモ利子ヲ徵收スベ
キ理由ナシトセラレタルニ中頃ニ至リ貨幣ハ之ヲ以テ如何ナル財ヲモ買入ル、
コトヲ得ベク此レ等ノ財ハ果實ヲ生ズルモノナルガ故ニ貨幣ヲ貸シタル者ガ利
子ヲ徵收スルモ不當ニ非ズトノ説行ハレ十九世紀ニ於テハ學說ニ於テモ法制ニ
於テモ利子ハ正當ナルモノトシテ是認セラレタリト雖モ更ニ貨幣ヲ以テ買入レ

タル財ガ何故ニ果實ヲ生ジ純益ヲ生ズルカノ理由ニ付テハ未ダ學說ノ歸一シタルヲ見ズ啻ニ其歸一セザルノミナラズ寧ロ益々紛雜ニ赴ムクノ觀ナキニ非ズシテ中ニハ利子ノ存在ヲ以テ現今ノ社會組織ノ不都合ナルヲ證明スルモノナリトスル極端ナル反對論者サヘ現ハレタルヲ見ル Böhn-Bawerk ノ說ニ從ヘバ十九世紀ニ於テ唱ヘラレタル利子ノ學說ハ左ノ如ク分類スルコトヲ得ルト云フ而シテ此レ皆貨幣ヲ以テ買入レタル財ガ何故ニ純益(左記諸說ニ云フ所ノ利子ハ此ノ純益ノ義ト解シテ可也)ヲ生ジ得ルカラ説明セントスルモノナリ

一、資本ハ生産力ヲ有スルガ故ニ利子ヲ生ズトノ說(Produktivitätstheorie)

二、資本ハ其本體ガ價格ヲ有スルノミナラズ其使用モ亦獨立ノ價格ヲ有ス利子ハ資本ノ使用ノ代價ナリトノ說(Nutzungstheorie)

三、資本ヲ蓄積スルニハ欲望ノ節制ヲナサバルベカラズ利子ハ此ノ節制ノ報酬ナリトノ說(Abstinenz-theorie)

四、資本ハ勞働ノ結果トシテ得ラレタルモノナレハ利子ハ此ノ勞働ノ報酬ナリ

トノ說(Arbeitsstheorie)

五、凡テノ生産物ハ勞働ノ結果トシテ得ラル、モノナレバ凡テ勞働者ニ與ヘラ
レザルベカラズ然ルニ資本家ガ其生産物ノ價格ノ一部ヲ利子トシテ收ムル
ハ此レ勞働者ノ經濟上ノ弱者タルニ乗ジテ利益ヲ壟斷スルモノナリトノ說
(Ausbeutungstheorie)

六、其他ノ說、(多ク論ズルニ足ラザルモノ)

右ノ中第五ノ說ハ利子ヲ是認セザルコト古ノ通說ト同一ナレドモ其之ヲ是認セ
ザル所以ノ理由ハ全然異ナルモノナリ而シテ其他ノ諸說ハ凡テ利子ヲ是認スル
モノナリ

然ルニ十九世紀ノ末葉ニ至リ Böhm-Bawerk [資本及利子論] 二卷ヲ著ハシ其第一卷
ニ於テハ利子ニ關スル古來ノ凡テノ學說ヲ批評シ微ヲ闡キ細ヲ穿チテ其アラユ
ル缺點ヲ暴露シタルノ概アリ學問上ノ功績ノ甚大ナルハ固ヨリ多言ヲ要セザル
所ナレドモ其第二卷ニ於テ自說ヲ發表スルヤ規模雄大ニシテ一世ヲ傾倒スルノ
慨アルニ拘ラズ多少ノ缺點ヲ存スルヲ免ガレズシテ之ヲ贊成スル者ノ少カラザ
ルト同時ニ之ヲ非難スル者モ亦甚ダ多ク利子ノ學說ガ此ノ新說ニヨリテ統一セ

ラルベシト思ヒキヤ寧ロ益々之ヲ紛糾セシメタルノ觀アリ少クモ從來ハ前述ノ如ク六種ナリシ學說ニ更ニ一ヲ加ヘテ七種トナシタル外多ク得ル所ナカリシガ如シ又本年三月發行ニ係ル獨逸ノ「經濟學及ビ統計學年報」ニハ更ニ Otto Conrad ノ新說ナルモノヲ載セシガ前記ノ第一說卽チ資本ハ生産力ヲ有スルガ故ニ利子ヲ生ズトノ說ノ一變形ニ外ナラザレドモ自ラ稱シテ獨占說 (Monopoltheorie) ト云ヘリ

今予ハ先ヅ前記各說ノ中ニ於テ利子否認說タル第五說ノ不當ナル所以ヲ述ベテ之ヲ除外シ次ニ殘餘ノ是認說ヲ個々ニ略說シテ利子問題ガ現今如何ナル程度迄解決セラレ又其疑問ノ焦點ガ那邊ニ存スルカヲ明カニセントス

利子否認說ハ社會主義者タル Rodbertus, Marx 等ノ唱道シタル所ニシテ其要點ハ左ノ如シ曰ク財ノ價格ハ之ヲ生産スルニ要シタル勞力ノ分量ニヨリテ定マルモノニシテ財ハ全ク勞力ノ結果トシテ得ラル、モノナリサレバ勞働者ハ其生産シタル財ノ全部又ハ其財ノ價格ノ全部ヲ受領スル筈ナレドモ糊口ニ窮スル恐アルガ故ニ不利益ナル賃金ニ甘ンジテ勞働ニ從事シ資本家ハ勞働者ノ利益ヲ壟斷シテ己レノ腹ヲ肥ヤスモノナリト云フニアリ而シテ若シ此ノ說ヲ正當ナリトセバ

貸金ノ利子ハ左ノ如ク説明スルコトヲ得ベシ曰ク資本ヲ利用シ得ル者ハ此クノ如キ特殊ノ利益ヲ收メ得ルヲ以テ自ラ資本ヲ有セザル場合ニハ利子ヲ拂ヒテ迄モ他人ノ資本ヲ借ランコトヲ希望スル者甚ダ多ク茲ニ利子ヲ生ズト云フコト此レナリ然ルニ凡テ財ハ勞働ニヨリテ得ラル、コトハスミスモ既ニ言ヒシ所ニシテ眞理ニ相違ナキモ其所謂勞働ハ單ニ勞働者ノ肉體的勞働ノミヲ指スニ非ズ又或ル特定ノ財ヲ生産スル其時ニ於テ爲サル、勞働ノミヲ指スニモ非ズシテ企業者、機械發明者等ノ智力上ノ勞働モ或ハ過去ニ於テ爲サレタル勞働モ皆此所ニ所謂勞働ニ包含セラル、モノト解セザルベカラズ果シテ然ラバ資本家ガ利子ヲ收ムルハ必ズシモ勞働者ノ利益ノ一部ヲ横奪スルモノナリトハ云フ能ハザルナリ蓋シ生産ヲ行フ時ハ之ニ投ジタル資料(勞力ヲ含ム)ノ價格ノ和ヨリモ一層多クノ價格アル生産物ヲ得ルコトハ何人モ認メザルベカラザル事實ニシテ此ノ餘剩價(Melnworth)ガ果シテ何人ニ歸屬スベキモノナルカハ實ニ重大ノ問題ナリ社會主義者ハ之ヲ勞働者ニ歸屬スベキモノナリトナスガ故ニ前述ノ如キ說ヲ生ジ一般ノ學者ハ之ヲ資本家及ビ企業者ニ歸屬スベキモノナリトナスガ故ニ下ニ述ブ

ルガ如キ說ヲ生ズル所以ナリ而シテ此ノ餘剩價ヲ以テ勞働者ニ歸屬スルモノト云フ能ハザルハ多數ノ學者ノ一致スル所ナリトセハ利子存在ノ理由ハ之ヲ下記ノ諸說ニ求ムルノ外ナキナリ

今利子は認說ニ付テ說カントスルニ當リ先ヅ一言セザルベカラザルコトアリ即チ利子存在ノ理由トシテハ一ニハ資本ノ有要ナルコトヲ明カニセザルベカラズ二ニハ資本ノ供給ガ需要ヨリモ少クシテ之ヲ得ルニ多少ノ困難アルコトヲ注意セザルベカラザルコト此レナリ凡ソ經濟上ノ財ト稱セラル、モノハ有要ニシテ且ツ比較的ニ少ク存在スルモノニ限ルコトハ予ノ暇々ヲ俟タザル所ニシテ資本ガ經濟上ノ財タル以上ハ其供給ガ需要ニ比シテ少キコトハ言フ迄モ無キ如クナレドモ之ヲ記臆スルコトガ利子問題ノ解決ニ少カラザル便利ヲ與フルガ如シ斯クテ利子存在ノ理由ノ一半ハ資本ノ供給ガ不足ナルニ在リ然レドモ單ニ不足ナルイミニテハ未ダ利子ヲ生ズベキ道理ナシ何トナレハ若シ資本ニシテ格別有要ナラザルモノナラハ如何ニ其供給ガ少クトモ利子ヲ支拂ヒテ迄モ之ヲ借り受ケントスル者ナカルベケレハナリ而シテ既ニ實際ニ於テ利子が存在スル以上ハ

資本ガ必ズ有要ナルモノニ相違ナカルベキヲ以テ若シ其有要ナル所以ノ理由ニシテ發見セラル、ナラハ利子存在ノ理由ハ茲ニ完全ニ發見セラレタリト云フコトヲ得ベシ、知ラズ資本ハ何故ニ然カク有要ナルカ、

前ニ列記シタル利子は認説ハ此點ニ向テ如何ナル説明ヲ與フルカト云フニ概シテ甚ダ満足スベカラザルモノナルヲ見ル殊ニ *Abstinenztheorie* (捨樂説) 及 *Arbeitsheorie* (勞働報酬説) ノ二者ニ至テハ利子ガ何故ニ實際ニ存スルカラ説明スル學理論ニ非ズシテ寧ロ資本金ノ利子ヲ收ムルハ恕スベキコトナリトシ若クハ利子ノ徵收ヲ容認スル方社會全體ノ爲ニ得策ナリト云フ辯護論又ハ政策論ニ外ナラザルナリ即チ捨樂説ニヨレバ凡ソ財ノ價格ハ之ヲ生産スルニ投ジタル凡テノ資料(勞力ヲモ含ム)ノ價格ノ總計ニ同ジカルベキ筈ナルニモ拘ラズ實際ニ於テハ生産物ノ價格ハ之ニ投ジタル資料ノ價格ノ和ヨリモ大ナルハ此レ全ク資本金ガ其欲望ヲ節制シ財ヲ消費セズシテ之ヲ資本トシ生産ニ役立タル捨樂ノ報酬ニ外ナラズト説クモノナリ此ノ説ハ *Böhm-Bawerk* モ多少ノ眞理ヲ包含スルモノナリトシ一般ニ贊成者モ少カラザル由ナレドモ要スルニ資本金ノ利子收入ヲ恕スベキコト

ナリト云フノ意ニ外ナラズ又勞働報酬說ニハ種々ノ區別アリ或ハ資本ハ元來勞働ニヨリテ生ジタルモノナレバ之ヲ利用シテ生産ヲ行フ場合ニハ前ニ費シタル勞働ノ報酬ヲ生ゼザルベカラズ此レ利子ナリト云フ論者アリ或ハ資本ハ貯蓄ニヨリテ生ジ貯蓄ハ一種ノ勞働ナルヲ以テ此ノ勞働ノ報酬トシテ利子ヲ生ズト云フ論者アリ或ハ又今ノ經濟組織ニ於テハ資本家ハ如何ナル財ヲ如何程生産スベキカラ定メテ之ヲ實行スルノ大任ニ膺ルガ故ニ此ノ任務實行ノ勞働ニ對スル報酬トシテ利子ヲ得ト說ク者アリテ其所說一ナラズト雖モ要スルニ此レ亦資本家ノ利子徵收ヲ恕スベキコトナリト云フニ外ナラズ而シテ此ノ說ハ前說ト同ジク凡ソ財ノ價格ハ其生産ニ投ゼラレタル凡テノ資料ノ價格ノ和ニ等シトノ思想ヨリ出デタルモノナレバ此ノ思想ノ正シキコトガ證明セラレタル後ニ非ザレハ肯スル能ハザル說タルヲ免ガレザルナリ勿論吾人ハ無ヨリ有ヲ生ズル能ハズ又有ヲ無ニ歸セシムル能ハザルコト明カナレハ凡テノ財ハ其生産ニ投ゼラレタル資料ノ變形ニ外ナラザルベシト雖モ此レ唯物理上ノ事實ニシテ心理的事實タル價值價格ノ問題ニハ適用シ難キ事柄ナリ殊ニ資本家ガ今ノ經濟組織ニ於テ重大

ノ任務ヲ盡スガ故ニ利子ヲ受クト云フノ說ニ至テハ資本家ヲ以テ直チニ企業者トナシタル謬說ニ外ナラザルナリ

次ニ *Nutzungstheorie* (資本使用有價說) ハ資本ノ本體ガ價格ヲ有スル外ニ資本ノ使用モ亦獨立ノ價格ヲ有スト說クモノニシテ予ノ求ムルガ如ク資本ハ何故ニ有要ナルカラ説明スルニ近キガ如シト雖モ資本ノ使用ガ何故ニ獨立ノ價值ヲ有スルカラ説明セズ只漫然財ノ價格ハ其生産ニ投ゼラレタル資料ノ價格ノ和ニ等シトノ前提ニ基キ生産物ノ價格ガ其生産資料ノ價格ノ和ヨリモ大ナル如ク見ユルハ此レ全ク資本々體以外ニ資本ノ使用ガ獨立ノ價格ヲ有シ生産資料トシテ計上セラレザルベカラザルコトヲ證明スルモノナリト說クノミニシテ未ダ予ヲ満足セシムルニ足ラザルナリ

茲ニ於テ予ハ資本ノ有要ナル所以ノ理由ヲ J. B. Say, Lauderdale 等ノ *Productivitätstheorie* (生産力說) 或ハ Böhm-Bawerk ノ學說或ハ又 Otto Conrad ノ *Monopoltheorie* (獨占說) ニ求メザルベカラズ生産力說ハ十九世紀ノ初ニ於テ既ニ唱ヘラレ今ニ至ル迄最も有力ノ學說タルヲ失ハズ近時米國ノ Clark 等モ亦之ヲ唱フ其說ノ概要ハ略々左ノ

如クナルガ如シ曰ク生産ヲ行フニ當リ資本ヲ利用スル時ハ之ヲ利用セザル場合ヨリモ多クノ結果ヲ得而シテ其結果ハ初メ其生産ニ投ジタル資本ヲ償フテ尙ホ餘アルヲ以テ資本ハ生産力ヲ具備スルモノナリト云フベク利子ハ全ク此ノ生産力ニヨリテ生ズルモノナリト云フニアリ此ノ說ハ多數ノ學者ニヨリテ唱ヘラレタルヲ以テ彼此ノ間多少異同ノ存スルヲ免ガレズサレバ Böhm ハ之ヲ二ニ大別シテ一ヲ「幼稚ナル生産力説」ト名ケ他ノ一ヲ「理由ヲ附シタル生産力説」ト名ケシガ後者ハ前者ニ比シテ少シク論理ノ緻密ナルモノナレドモ何レノ說モ未ダ吾人ヲ満足セシムル能ハザル所以ノモノハ資本ヲ投ジテ生産ヲ行フ場合ニ其生産物ノ價格ガ初ニ投ジタル資本ヲ償フテ尙ホ餘アルノ理由如何ニ至テハ全ク論ズルコトナケレバナリ今一例ヲ舉ゲテ此ノ點ヲ明カニセンニ例ヘバ金千圓ヲ他人ニ貸シタル場合ニ一ケ年ニ五十圓ノ利子ヲ徴收スルヲ得ルハ其借手ガ此ノ金子ヲ以テ原料、機械等ヲ買入レ生産ヲ行ヒ此レ等ノ資料ノ代價ヲ償却シ若クハ此等ノモノノ消耗セラル、部分ヲ償却シテ尙ホ餘分ノ利益ヲ得ルヲ以テナリト説明スルガ如シ固ヨリ事實ニ相違ナシト雖モ更ニ一步ヲ進メテ其何故ニ然ルカラ研究セザ

ルナリ Clark ノ説ニ曰ク The laws of matter, in short, make capital productive The power of capital to create the product is, then, the basis of interest. (Distribution of Wealth, p. 135) ト以テ其無頓着ナルヲ見ルベシ Conrad ノ獨占説ハ生産力説ノ一分派トモ見ルベク唯其言ヒ現ハシ方ヲ異ニス即チ生産力説ニ在テハ資本ヲ投ジテ生産ヲ行フ時ハ之ヲ投ゼザル場合ヨリモ多クノ結果ヲ生ズト云フニ反シテ Conrad ハ資本ヲ投ズル時ハ同ジ結果ヲ得ルニ少キ生産費ヲ要スト云ヒ資本ノ效力ハ結果ノ増大ニ在リト云ハズシテ生産費ノ節約ニ在リトナセリ而シテ此ノ效力アル資本ヲ得テ其恩惠ニ浴セント希望スル者多數ニシテ其供給ハ需要ニ應ズルニ足ラザルガ故ニ茲ニ利子ヲ生ズト説明シ其供給ノ少ニシテ資本所有者ハ獨占的ノ地位ニアルコトニ重キヲ置テ此ノ説ヲ獨占説ト名ヅケタルナリ、然レドモ此ノ説ハ決シテ新説ニ非ズ十九世紀ノ初頭ニ於テ生産力説ノ主唱者 Lauderdale ハ既ニ左ノ如ク言ヘリ曰ク資本ヲ投ジテ行フ生産ガ有利ナルハ資本ガ勞力ヲ省クカ又ハ人ノ勞力ニテハ成シ難キ事柄ヲ成シ得ル場合ニ外ナラズト尙ホ彼ハ種々ノ例證ヲ舉ゲテ此ノ理ヲ説明セシガ Böhm-Bawerk ハ之ヲ評シテ左ノ如ク言ヘリ曰ク In this way Lauderdale-

dale thinks he has satisfactory established, that the cause and source of profit lies in a saving of labour, or of the wage of labour. (Capital and Interest, 英譯 P. 145) トサレハ資本ノ效力ヲ結果ノ増大ニ在リトセズシテ生産費ノ節約ニ在リトスルコトハ早クヨリ考ヘラレタル所ニシテ Conrad ノ說ハ生産力說ニ比シテ何等ノ進境ヲ見ザルモノナリト云フモ不可ナカルベキカ

最後ニ Böhm-Bawerk ハ資本ノ生産力ヲ單ニ一個ノ事實ナリト看做スニ満足セズ其何故ニ生産力ヲ有スルカヲ説明センコトヲ企テタル者ナリ尤モ彼レモ必ズシモ前人未發ノ新說ヲ唱ヘシニハ非ズシテ Galiani, Jevons 等ガ既ニ其以前ニ唱ヘタル所ト同說ナレドモ彼ハ此レ等ノ前人ノ所說ヲ見ザル以前ニ獨立シテ案出シタル說ナリト稱シ又前人ニ比シテ遙カニ詳細ナル説明ヲ下シタルモノナレバ之ヲ以テ彼ノ新說ト云フモ多ク事實ニ反セザルナリ而シテ其說ニヨレバ人ノ財ヲ見ルヤ之ヲ直ニ欲望満足ニ供シ得ル場合ト若干ノ日時ヲ經過シタル後ニ始テ之ヲ欲望満足ニ供シ得ル場合トニ於テ之ニ附與スル價格ヲ異ニシ殊ニ或ル財ガ欲望満足ニ役立テラレ得ル日時ノ現在ヲ距ルコト遠キニ隨テ漸次ニ少キ價格ヲ附與ス

此レ實ニ利子存在ノ根本理由ナリト云フ、而シテ人ハ何故ニ現在ニ役立ツ財ヲ重
ンジ未來ニ始テ役立ツ財ヲ輕ンズルカト云フニ其理由左ノ如シト稱セラル

一、現在財ハ現在ノ需要ヲ充タスニモ用キ得ベク又未來ノ需要ヲ充タスニモ用
キ得ルニ反シ未來財ハ唯未來ノ需要ヲ充タシ得ルニ過ギズ故ニ現在財ハ未
來財ヨリモ價值多シ(但シ貯蓄シ得ザルモノハ此限ニ非ザルベシ)

二、人ハ未來ノ欲望ヲ輕ンジ又隨テ未來財ヲ輕ンズ、其理由左ノ如シ

イ、未來ヲ慮ル分別ニ於テ缺クル所アリ

ロ、未來ヲ待ツ忍耐力ニ於テ缺クル所アリ

ハ、人生ハ夢ノ如シトシテ未來ニ於ケル自己ノ生命ヲ不確實ナリト思フハ人
情ナリ

三、現在財ハ直ニ生産ニ投ジ得ベク未來財ハ若干ノ日時ヲ經過シタル後ニ非ズ
ンバ生産ニ投ズルコトヲ得ズ而シテ生産ハ之ニ長キ時間ヲ與フレバ與フル
程益々多大ノ結果ヲ得ルヲ以テ技術上ニ於テ現在財ハ未來財ヨリモヨリ多
ク欲望ヲ満足セシムルコトヲ得

而シテ資本ヲ投ジテ生産ヲ行フ場合ニハ企業者ハ未來財タル原料、勞力等ヲ安價ニ買入レ之ヲ現在財タラシムルヲ以テ生産物ノ價格ハ生産資料(勞力ヲ含ムコト前ト同ジ)ノ價格ノ和ヨリモ大ニシテ此ノ差ガ即チ利子ヲ生ズル所以ナリト云ヒ又資金ヲ他人ニ貸付スル場合ニハ現在財タル資金ヲ他人ニ與ヘテ未來ニ於テ受取ルベキ返濟金即チ未來財ヲ受クルコトニ外ナラザルヲ以テ兩者ノ間ニ價格ノ權衡ヲ保タシメント欲セハ未來財ヲ分量ニ於テ多クセザルベカラズ而シテ聽テ返濟期ニ到リ分量ノ大ナル未來財ガ現在財トナリテ貸手ノ手ニ歸スル時ハ其ノ分量大ナル丈ケガ利子トシテ貸手ノ利益トナルモノナリト說キ尙ホ又家屋、書籍等ノ如キ長キニ堪ユル財ヲ貸付クル場合ニ利益ヲ生ズルハ其家屋等ノ買入價格ガ其物ノ爾後毎年ニ於ケル使用ノ價格ヲ合計シタルモノニ等シク其使用價格ハ今年ニ於テハ其全部ヲ認ムルモ明年以後ノ分ハ未來財ニシテ現在ヲ距ルコト遠キニ隨テ順次ニ割引セラレタルモノナルガ故ニ其價格ノ全體ハ決シテ今年ノ使用價格ヲ其使用ニ堪ユル年數丈ケ集計シタルモノニ非ズ即チ比較的ニ安價ニ買入レ得ルモノニシテ之ヲ他人ニ貸付スル場合ニハ初メ未來財トシテ割引シテ

計算セラレタル使用價格ガ順次ニ現在財トナリ之ニ相當スル代價ヲ支拂ハル、
ガ故ニ營ニ初メニ投ジタル資本ヲ回收スルノミナラズ其外ニ純益トシテ利子ヲ
生ズト説明ス

斯クテ Böhm-Bawerk ハ予ガ疑問トスル所ヲ疑問トシ之ヲ解決センコトヲ試ミ貸
金ノ利子モ生産ノ純益モ皆其由テ來ル所以ヲ説明スルニ成功シタルガ如シト雖
モ實ハ此ノ説明ハ危險ナル前提ノ上ニ立ツモノナリ即チ凡テ人ハ未來財ヲ輕ン
ジ又其現在財トナルノ日ノ現在ヲ距ルコト遠キニ隨テ順次ニ之ニ少キ價格ヲ附
與スルヲ前提トスルモノニシテ學者中此前提ニ疑ヲ插ム者少カラズ即チ例ヘ
ハ冬季ニ於テ人アリ氷ヲ今直ニ汝ニ與フルト今ヨリ數月ヲ經テ夏季ニ到テ氷ヲ
汝ニ與フルト何レヲ希望スルカト問ハハ恐クハ何人ト雖モ現在財タル目前ノ氷
ヨリモ未來財タル夏季ノ氷ヲ希望スルナルベシ即チ此ノ場合ニ於テハ現在財ヨ
リモ未來財ガ多クノ價值ヲ認メラレ多クノ價格ヲ附與セラル、ナリ而シテ此ク
ノ如キ場合ノ存スルコトハ Böhm-Bawerk 自身モ認ムル所ナリ (Kapital u. Kapitalzins, II.
s. 314) 又凡ソ生産ハ之ニ長キ時間ヲ與フレハ與フルホド多大ノ結果ヲ得トノ主

張モ疑ヲ容ルベキ餘地多キガ如シサレバ此ノ說ヲ以テ原因ト結果トヲ顛倒シタルモノナリトスル論者少カラズ卽チ現在財ト未來財トノ價格ガ異ナルガ爲ニ利子ヲ生ズルニ非ズシテ利子ナルモノガ既ニ世ニ存スルガ故ニ現在財ト未來財トノ價格ニ相違ヲ來スナリト云フ者アリLocke'sノ如キ卽チ其一人ナリサレバ資本ガ何故ニ有要ナルカ何故ニ利子ヲ拂フテ迄モ之ヲ借ラントスル者多キカノ理由ハ現今ニ於テハ未ダ充分ニ説明セラレズ只單純ニ資本ハ生産力ヲ有スル故ニトカ又ハ資本ハ生産費節約ノ效力アルガ故ニトカ云フヲ以テ満足セザルベカラザルガ如シ念フニ此ノ方面ニ於テハ尙ホ今後奧國、米國等ノ所謂抽象的經濟學派ニヨリテ開拓セラレザルベカラザル餘地甚ダ多シ

以上ノ所說ハ只從來ノ學說ヲ列舉シタルニ過ギザルガ如シト雖モ其評論ハ多少新見地ヨリ爲サレタルモノナルコトハ讀者ノ承認セラル、所ナルベシ而シテ利子問題ノ疑問ノ焦點ガ那邊ニ存スルカハ本論ニヨリテ略々明カニシ得タリト信ズ